〈研究ノート〉

支援者用チェックシート導入による親子関係支援への影響の検討
―養育者と支援者へのインタビュー内容の分析を通して―

三　木　陽　子※

要約

幼児期の療育支援として行われている親子グループにおいて、安定したよりよい親子の関係性を育てていくことをねらい、支援者に省察のためのチェックシートの記入を求めた。本研究ではその影響を検討するため、支援者と養育者双方にインタビューを実施し、その内容を分析した。チェックシートの項目ごとに支援の影響をみた結果からは、養育者が認識する支援と認識しない支援のあることが明らかになった。支援者においては、チェックシート記入による省察機能や支援のねらいの意識化、自身の傾向への気づきといった影響がみられた。養育者においては、子どもの内面へ関心を向け、内面理解に基づいて関わりを変化させている事例がみられ、情緒面での成長の実感が語られた。今後、実際の養育者と子どもの相互交渉を行動レベルで検討することにより、チェックシート項目で挙げられている支援の影響を検証することが必要とされた。

キーワード　児童発達支援　親子グループ　親子関係性　省察　チェックシート

目次

1　問題と目的
2　方法
　2．1　本研究における方法の概要
　2．2　支援者によるチェックシート記入の実施について
　2．3　支援者と養育者へのインタビューの実施について
　2．4　データ分析の手続きについて
　2．5　倫理的配慮
3　結果
　3．1　コードの総数
　3．2　項目による分類と支援者・養育者の対照表
　3．3　支援者データからのコードとカテゴリ
　3．4　養育者データからのコードとカテゴリ
4　考察
　4．1　支援者と養育者の対照からみる各項目の支援とその影響について
　4．2　支援者データからみたチェックシート導入の影響について
　4．3　養育者データからみた支援からの影響について
5　結論

※浦和大学　こども学部

1　問題と目的

児童発達支援の施設では、子どもが単独で通園する以外に、養育者と子どもが共に参加する親子グループの形態で活動しているところもある。親子で療育に参加する利点は様々にあるが、その一つに支援のもとで養育者と子どもがよりよい相互作用を経験することができる点がある。適切な相互作用により安定した親子関係を築くことは、子どものアタッチメント（愛着）形成において、またそこを基盤として促される様々な発達において重要な支援目標となる。養育者との健全なアタッチメントがもたらす効用としては、基本的信頼感や共感といった対人関係領域での発達や感情・行動を自己制御する能力など、さまざまな領域の発達を促進すると考えられている（繁多，2019）。

しかしながら、親子の適切な相互作用の経験からよりよい親子の関係性を育むという支援目標は、発達支援の支援者において未だ認識が薄いように見受けられる。あるいは、愛着形成の重要性は知識として持たれているものの、どのような関わりや活動により関係性への支援を行うのかという点において、あいまいなまま療育が行われているのかもしれない。このような支援の場においては、支援者がより親子関係への支援の質を高めるための手立てが必要になると思われる。そこで支援者が親子関係への支援を療育の目的として意識し、その視点での関わりや支援を行うことができたかを振り返るためのチェックシートを作成した。療育において親子の関係性自体を支援のターゲットとして関わりを意識し、適切な相互作用を仲介できているかを支援者が確認できるようチェック項目を考えた。親子関係に関する理論背景として、愛着研究や臨床への応用で多く扱われている養育者のメンタライゼーション（Bateman,A. and Fonagy,P.，2004）や、他者の注目への気づきに関する知見として二人称アプローチ（レディ，2015）などを参照にした。

このチェックシートに半年間記入した内容を検討したところ（三木，2022）、支援には子どもの発達特性に関する深い理解に基づいた関わりが求められること、その上で支援者が親子の関係性を意識した支援を行っていることが示唆された。項目によるばらつきはあるものの各項目のねらいにそった記述が一定程度されており、チェックシートを導入したことによる親子関係支援への影響をうかがわせるものであった。

さらに本研究では、療育グループで支援をしている支援者と参加の養育者の両者において、チェックシートが導入されたことによる影響を検討したいと考える。項目内容の支援の影響を、支援者と養育者の双方向から検討することにより、影響をより総合的に把握していくことが目的である。加えて、支援者においては、チェックシート記入により支援にどのような影響がみられたのか、また、各項目内容の支援についてどのように感じたのかを明らかにし、チェックシートの有用性について検討する。養育者については療育に参加していること自体の影響も当然想定されるが、その上でチェックシート項目内容の支援によってこども理解や親子の関係性に影響がみられたのかを検討していく。

2　方法

2．1　本研究における方法の概要

本研究では、支援者用チェックシート導入による影響について検討することが目的であるため、はじめに親子療育グループへの「支援者用チェックシート導入」に関する方法や手続きについて述べ、続いてチェックシート導入後の「支援や親子相互作用への影響」を確認するための方法について述べる。本研究では、３歳児の親子グループ一つを取り上げ、このグループの支援者と養育者にインタビューを実施した。インタビュー内容の分析から、それぞれが療育グループで行われた支援をどのように捉えていたのかを明らかにし、チェックシートの影響について確認をしていく。

2．2　支援者によるチェックシート記入の実施について

（1）実施機関・グループ・支援担当者

関東圏にある児童発達支援センターで行われている幼児期の親子療育グループにて、担当支援者にチェックシートの記入を依頼した。このグループは週２回活動を実施しており、３歳児とその養育者５組が参加していた。療育への参加の理由は、言葉や成長が遅れている、落ち着きがないといったことであった。担当の支援者は２名で、職種は保育士、児童指導員である。

（2）実施期間

支援者によるチェックシートの記入は、2020年10月から2021年３月の６か月の間で行われた。ただし、グループの活動は、2019年４月から開始されている。

（3）チェックシートの構成と項目内容

チェックシートは以下の内容を書き込む様式となっている。

実施日・グループ名・支援者氏名・グループ参加親子組数・配慮事項のチェック欄・支援に関するチェック項目と記述欄・「まとめ」の記述欄・「次回に向けて」の記述欄

支援に関するチェック項目は以下の７項目あり、その項目のねらいにそった支援を実施した場合は、対象者名と具体的な支援内容を記述するものとなっている。

1．親に対して、子どもの行動の意味（感情、思考、意図、欲求）を、発達特性を基にして、伝えた。
2．子どもの内面（感情、思考、意図、欲求）を代弁する言葉かけを、親に伝わるように行った。
3．親自身の内面（感情、思考、意図、欲求）について話を聞いたり、問いかける言葉かけをした。
4．子どもが親に、あるいは、親が子どもに注目するような関わりを仲介した。
5．親が行うと良いと思われる関わりについて伝えたり、実際に行って見せた。
6．親が子どもと楽しく関われる遊びや活動について仲介したり、情報提供を行った。

７．親や子どもにおけるよい変化について、親と共有した。

（４）実施方法

グループ担当の支援者に、２週間から１か月に１回程度の頻度で、６か月間継続して記入することを求めた。支援者で集まり話し合いながら記入することも試みたが、大半は各々の支援者が時間をみつけ一人で記入していた。また、筆者は月に１回程度心理士として活動に参加し、終了後支援者の振り返りの場に入った。そこでは、適宜チェックシートについて説明を行い、支援についての助言をした。

２．３　支援者と養育者へのインタビューの実施について

支援者用チェックシート導入による支援や親子関係への影響を調べるために、支援者と養育者双方にインタビュー調査を行う。

（１）対象者

支援者として、グループ担当の支援者２名に実施した。養育者として、グループ参加の５組のうち３組の養育者（２組は父と母、１組は母のみ）に実施した。他の２組については、１組は長期欠席のため、もう１組はインタビューを受けることに同意を得ていたが日程の調整がつかず、実施できなかった。

（２）実施期間と所要時間

グループが終了する時期である2021年３月から４月の間に実施した。インタビューは、一人（一組）40分から１時間程度行った。

（３）実施方法

一人（一組）に対して、筆者が個人面接でインタビューを行った。半構造化面接により質問をしていき、意見や感想を聴取した。場所は施設内の面接室にて実施し、対象者に許可を得た上で発話はすべてICレコーダーにより録音した。

（４）インタビューの質問内容

支援者に対しては、以下のような質問を行った。主にチェックシート導入による感想や支援者側への影響、よりよい運用の方法について尋ねた。

・チェックシートを導入してみて全体的な、率直な感想はどのようなものであるか
・書きやすかった項目、あるいは、書きにくかった項目は何か、また、その理由は何か
・チェックシート記入に関して、よかったこと、あるいは、大変なことはあったか
・チェックシートを書くことで自分が行う支援に何か影響はあったか

養育者に対しては、以下のような質問を行った。主に親子グループに参加しての感想や支援者の関わりについて感じたことを尋ねた。なお、養育者に対してチェックシートの項目内容は知らせていない。

・グループに参加して、よいと思われること、あるいは、大変と思われることはあったか
・支援者の子どもへの関わりをみて考えたこと、感じたことはあったか（例えば、参考になったこと、あるいは、疑問に思ったことなど）

・子どもの行動の意味や理由、子どもの内面についてわからないと感じることは何か、その際にグループでの支援で役立ったことはあるか
・支援者と話したり、支援者の子どもへの関わりに接して、自分の子どもへの関わりや自分自身について振り返ったり、考えたりしたことはあったか

2．4　データ分析の手続きについて

（1）インタビュー内容のテキスト化、コーディング、カテゴリ化

支援者と養育者に行ったインタビューにおいて発話された内容をテキスト化した。そのテキストデータを文脈の意味を失わない程度セグメントに分割し、全てのセグメントにコーディングを行った。その際には、分析視点に基づいた分析メモを作成した。この時点でのコーディングはセグメントにおける内容が理解できる程度のコードをつけ、あまり抽象化しすぎないように留意した。コードの内容から、より高次コードとして集約できるものをまとめ、カテゴリ化を行った。

（2）チェックシート導入による影響の確認

本研究の目的である「チャックシート導入により支援や親子相互作用への影響がみられたのか」を確認するため、各項目のねらいとコードやカテゴリの内容を照らし合わせ確認を行った。チェック項目のねらいに当てはまる支援内容やその影響がみられたと考えられるコードやカテゴリを当該の項目に分類した。また、項目の内容のみならず、チェックシート導入自体によって支援に影響があったと考えられるコードやカテゴリも取り上げ、整理した。

2．5　倫理的配慮

本研究を実施するにあたり、実施機関、グループ担当の支援者、また参加の養育者に対して研究主旨の説明を行い、書面による同意を得た。また、筆者の所属機関における研究倫理審査により承認を受けている（倫理審査番号030）。

3 結果

3．1　コードの総数

支援者と養育者のインタビュー内容の全てをセグメントに分けコーディングした結果、148のコードが生成された。その内、支援者のインタビューデータで75、養育者のインタビューデータで73のコードを付与した。

以下、本研究の目的である「チェックシート導入による支援や親子相互作用への影響」に関連したコードとカテゴリについて結果を示す。コード名は〈　〉で、カテゴリは《　》にて表記する。

3．2　項目による分類と支援者・養育者の対照表

全てのコードの中からチェックシートの項目内容に関連するものを見い出し、該当の項目

に分類した。支援者では各項目内容を表した「項目１：発達特性に基づいた行動意味の伝達」「項目２：養育者に向けた子の内面の代弁」「項目３：養育者の内面の聴取や言葉かけ」「項目４：相手を注目する関わりの仲介」「項目５：養育者に求める関わりの伝達やモデル提示」「項目６：楽しく遊ぶ関わりの仲介や情報提供」「項目７：養育者や子のよい変化の共有」のそれぞれに関連すると考えられたコードを分類した。養育者では、各項目でねらっている支援が行われたことによる影響と推測される内容、すなわち「項目１より：行動背景にある子の内面理解」「項目２より：子の内面への関心や言語化」「項目３より：養育者自身の内面の意識化」「項目４より：子の視線や行動に注目」「項目５より：関わり方のモデルや教えられたことの取り入れ」「項目６より：楽しく遊ぶ方法や関わり方の教示とその取り入れ」「項目７より：変化や成長の共有による実感」に当てはまるコードを分類した。

表１に各項目ごとのコードとカテゴリを支援者と養育者を対照させる形で示す。加えて、担当支援者によって記入されたチェックシートにおける各項目の記入数と総数における項目ごとの割合を参考として表記する。

項目１に関しては、支援者において《支援や記入の平易》という意見と《支援や記入の困難》という意見が混在しているが、シートへの記入率をみると23.4％と割合多く書かれている項目である。養育者では、項目１の《支援による肯定的影響》として〈かんしゃくの理由を支援者が分析してくれたことによる養育者の心の整理〉といった５つのコードが分類された。

項目２は、支援者からは《支援や記入の平易》という意見がみられ、養育者からも〈養育者が思いつかない子の代弁を支援者がすることによる子の考えの理解可能〉など４つのコードが項目２の《支援による肯定的影響》として集約した。

項目３は、支援者において《支援の実際や意義》のコードもありつつ、《支援や記入の平易》と《支援や記入の困難》が混在する、コード数の多い項目であった。その一方で、養育者においてこの項目に分類されるコードは見い出せなかった。シートへの記入率は6.5％と低いものとなっている。

項目４では、支援者において〈子どもが養育者の方に向かうよう支援することでの養育者の喜び〉といった《支援の実際や意義》についてのコードがみられるが、養育者において該当するコードは無かった。

項目５は、支援者において該当するコードは無かったが、シートへの記入は15.6％とある程度記入のある項目である。一方、養育者においては、例えば〈支援者の待ちの関わりから子のペースを大事にする意識と関わりの生起〉など５つのコードが項目５の《支援による肯定的影響》としてみられた。

項目６は、支援者で《支援や記入の困難》のコードがあり、記入率も2.6％とかなり低いものとなっている。また養育者において、この項目に分類されるコードは無かった。

項目７については、支援者では《支援や記入の平易》のカテゴリがみられ、記入率も29.9％と最も高い項目である。養育者においては、１つのコードが分類された。

表１　支援者と養育者コードのチェックシート項目による分類

支援者インタビューからのコードとカテゴリー

チェックシート記入数/割合	カテゴリ	コード	下位コード
18/23.4%	**項目１：発達特性に基づいた行動意味の伝達**		
	支援や記入の平易	記入しやすい項目としての項目１	
			子の特性からの説明機会の多さ
	支援や記入の困難	記入しにくい項目としての項目１	
			上辺の行動意味伝達のみならず発達特性をも合わせて話す難しさ
		行動の意味説明における作成者意図との相違懸念	
		特性に基づいた行動理解の適切性に関する自分のみでの不確実さ	
8/10.4%	**項目２：養育者に向けた子の内面の代弁**		
	支援や記入の平易	記入しやすい項目としての項目２	
5/ 6.5%	**項目３：養育者の内面の聴取や言葉かけ**		
	支援や記入の平易	記入しやすい項目としての項目３	
			養育者と話をしやすいがゆえに難しいことはない項目３
			担任とは違うサブ的な立場ゆえに近しい感覚での話しやすさ
			上世代である支援者への愚痴りやすさ
	支援の実際や意義	養育者内面の意識的な問いかけ	
			養育者の微妙な反応から本当の思いを問う働きかけ
		子と同じく養育者の内面共有による理解されている感の必要性	
			シート使用による養育者内面代弁の必要性の意識化
	支援や記入の困難	項目３の無記入への気づき	
			他の支援者に比して養育者内面の言語化困難
			試した養育者内面の代弁のぎこちなさ
			子側の立場で捉える傾向と養育者内面への目の向かなさへの気づき
			養育者内面の代弁困難理由として過度な同調の抑制
		養育者によっては本当の思いを問いかけることの不可	
9/11.7%	**項目４：相手を注目する関わりの仲介**		
	支援の実際や意義	子の一瞬の反応によるかわいさ実感から養育者への注意喚起のための言語化	
		子どもが養育者の方に向かうように支援することでの養育者の喜び	
12/15.6%	**項目５：養育者に求める関わりの伝達やモデル提示**		
2/ 2.6%	**項目６：楽しく遊ぶ関わり方の仲介や情報提供**		
	支援や記入の困難	記入しにくい項目としての項目６	
			自発で生じる楽しさを支援側が考えることであることの驚きや重圧
			養育者と子どもとの間で楽しいと思わせる発想ないことによる記入困難
23/29.9%	**項目７：養育者や子のよい変化の共有**		
	支援や記入の平易	よく記入した項目としての項目７	
			変化を記入しやすい理由としての年度後半での実施や２年目グループ

養育者インタビューからのコードとカテゴリー

カテゴリ	コード	下位コード
項目１より：行動背景にある子の内面理解		
支援による肯定的影響	物があるから触ってしまうという説明からの発想の転換と関わりの変化	
	理解不可行動もやりたいということは好きな事であると支援者との話から理解	
		理由不可行動も好きなだけやらせることでの次への切り替わり
	終了サインの必要性から子の視覚的判断優位の理解	
	理由のわからない行動に対する感覚刺激欲求という説明への納得	
	かんしゃくの理由を支援者が分析してくれたことによる養育者の心の整理	
子ども理解の大変さ	子の行動意味を考えるには養育者における気持ちの余裕の必要性	
項目２より：子の内面への関心や言語化		
支援による肯定的影響	養育者が思いつかない子の代弁を支援者がすることによる子の考えの理解可能	
		支援者が代弁している内容に関する家での考慮
	養育者のほめを子が意識しているとの支援者の言葉から得る確信	
	関わる際に子の内面を推測し対応を変えるといった実践	
	子の心の中で折り合いをつけるタイミングがあることへの気づき	
項目３より：養育者自身の内面の意識化		
項目４より：子の視線や行動に注目		
項目５より：関わり方のモデルや教えられたことの取り入れ		
支援による肯定的影響	わからずに行っている関わりについて確認し養育者が学び成長させてもらえる場	
	子への対応やスムーズなやりとりの仕方の理解	
	コミュニケーションをとってから遊びを終える関わり方の学び	
	切り替え時に予告として数を数えて知らせる方法の取り入れ	
	支援者の待ちの関わりから子のペースを大事にする意識と関わりの生起	
		子のペース尊重による崩れにくさの実感
項目６より：楽しく遊ぶ方法や関わり方の教示とその取り入れ		
項目７より：変化や成長の共有による実感		
	活動振り返り時に養育者が楽しむ遊びに対して子の模倣みられることへの気づき	

注１：チェックシートへの記入総数は支援者２名合わせて77であった。
注２：各コードが付与されたセグメントの数は「切り替え時に予告として数を数えて知らせる方法の取り入れ」で２であった以外は全て１であったため記載は省略した。

3．3　支援者データからのコードとカテゴリ

前述のチェックシート項目に関連したコード以外で、支援者データからのコードをカテゴリに集約した。チェックシート記入による支援者側への影響として、《支援の省察としての記録》、《親子の関係性への支援という意識化》、《支援における自分の傾向についての省察》の３つのカテゴリが生成された。また《省察への心理士によるサポート》や、《チェックシート記入や活用における困難》のカテゴリが作成された。結果を表２に示す。

表２　支援者インタビューからのコード・カテゴリ（チェックシート項目に分類したもの以外）

カテゴリ	コード	下位コード		
支援の省察としての記録	因果の検討という点で行動ベースの通常記録より深化した記録			1
		記入による自身の支援行動のカテゴライズ		1
		業務記録後思い出しやすさと整理の機会		1
	記入継続による記入内容出現の容易化			1
親子の関係性への支援という意識化	関わりを意識化し、意味づけ、説明できるといった支援力向上の効果			1
		チェックシートがあることによる意識の変化		1
		日々の忘却を防ぎ次につなげるシートでの振り返りの重要性		1
		これまで看過されてきたことに対するその場での丁寧な言語化の意識		1
		親子間の関わり仲介の支援を意識することによる記入の可能化		1
		支援しながらの項目内容の意識化		2
			養育者と接する際の項目内容の意識化	1
	親子の関わりを作り提供することが支援のねらいというあらたな認識			1
支援における自分の傾向についての省察	記入項目偏りへの気づきと自分自身の傾向の認識			1
		項目による得意不得意により自分の苦手部分の認識		1
	記入による支援対象者の偏りに関する気づき			1
省察への心理士によるサポート	項目内容と現象の結びつきに関する心理士助言による気づき			1
		心理士不在による記述内容の妥当性に関する不確実		1
		他支援者への気づきありつつ心理士不在による深まりの欠如		2
		心理士助言による楽しみ共有の重要性の認識		1
		初年に心理士不在でのシート活用の難しさ		1
チェックシート記入や活用における困難	重点項目の意識もちたいが現場での意識の脱落			1
	活動後に全てを思い出すことの難しさ			1
	思い起こしたエピソードがどの項目に値するのかの判断の難しさ			1
		項目数の多さからくる当該支援行動の当てはめの難しさ		1
	記入の時期やグループの成熟度による記入項目の偏り			1
	項目数の多さから全てを記入することへの諦め			1
	記入に時間を有する時とそうでない時との理由不明への戸惑い			1
		リーダーとして直接関与のない場合の記入の難しさ		1
		目的の曖昧さや支援者の動きの悪さによる記入の難しさ		1
		活動による記入難易の相違の可能性		1
	事象を共有するがゆえの支援行為者の勘違い			1

注１：右端の欄は各コードが付与されたセグメント数

この他では、《チェックシート活用方法の提案》といったカテゴリが作成された。

3．4　養育者データからのコードとカテゴリ

チェックシート項目に関連したコード以外で、養育者データからのコードを集約してカテゴリを作成した。チェックシート導入の影響として推察されるものとして、《養育者にも寄り添った支援》のカテゴリが、また《情緒や社会性、コミュニケーションにおける子の成長》カテゴリが作成された。結果を表３に示す。

表３　養育者インタビューからのコード・カテゴリ（チェックシート項目に分類したもの以外）

カテゴリ	コード　下位コード	
養育者にも寄り添った支援	子だけでなく親にも寄り添い一緒に対応を考えてくれる良さ	1
	終わり見えない長時間のかんしゃくについて支援者による傾聴	1
	養育者自身も子と一緒に楽しむ大切さの学びと普段における意識化	1
情緒や社会性、コミュニケーションにおける子の成長	模倣、コミュニケーション、人の顔見ての応答といった成長による子の欲求理解可能	1
	要求行動上達による子の思いの理解可能と養育者におけるやりとりの楽しさ	1
	笑顔や目線の合い、表情への注目といった成長による接する楽しさの増加	1
	拒否の言葉や表情の表出による子の行動理解の平明	1
	コミュニケーションとり終了する関わりの継続による気持ちの切り替えの上達	1

注１：右端の欄は各コードが付与されたセグメント数

この他では、《療育による肯定的影響》、《親子グループの良さ》、《疑問に思うことの皆無》、《子の関わりにおける困難さ》、《親子グループ参加の大変さ》といったカテゴリが作成された。

４　考察

４．１　支援者と養育者の対照からみる各項目の支援とその影響について

項目ごとにコードを分類した結果から、支援者においては支援や記入の実施しやすさに偏りがあり、また、養育者においては認識されやすい（あるいは、認識できる）支援やその影響に項目による差がみられれた。養育者の結果からは、項目１、２、５、７ではコードが複数分類され、これらの項目内容に関連した支援が認識されているが、項目３、４、６に関連したコードは見い出せなかった。以下、それぞれの支援における考察を行う。

（１）養育者において認識された支援やその影響について

チェックシート項目１の支援に関して、支援者は〈上辺の行動意味伝達のみならず発達特性をも合わせて話す難しさ〉を感じながらも、子どもの行動意味について養育者に伝える支援を意識して行っていることがインタビューの分析やチェックシート記入数から推察された。養育者の《支援による肯定的影響》カテゴリに集約されたコード内容からは、例えば〈理由のわからない行動に対する感覚刺激欲求という説明への納得〉のように、支援者からの発達特性の説明を元に子どもの内面理解が促されたことがうかがえる。子どもの行動が理解困難である養育者にとって、子どもに対しての理解は大きな支えとなるだろう。特に発達特性による理解困難は養育者のみでは解決しがたいこともあり、ここに専門家としての支援者の関わりが要されるのだと思われる。ただ、この項目１でねらいとしていることは、養育者に発達特性の理解を促すことだけではなく、その理解を元にして養育者によるメンタライゼーションを促すことである。子どもを心を備えた存在として捉え、子どもの行動を心の状態と関連付けて理解しようとする養育者のメンタライゼーション能力の高さは、子どもとの愛着関係の安定性と関連するとの知見（例えば、Slade et al, 2005）が多く報告されている。よりよい親子関係の促進を目的としたチェックシート活用において項目１の支援内容は根幹をなすものであり、養育者においてこの項目支援の影響と考えられるコードが複数確認されたことは、支援の有効性を示唆するものであると考える。

項目２は養育者に向け子の内面の代弁を行うものであるが、支援者においては《支援や

記入の平易》であるものと捉えられている。この項目のねらいは、支援者が子どもの内面を言語化することにより、子どもの内面に養育者の関心を向け、内面に関する発言を促進することにある。メンタライジングの研究に基づいた論考（蒲谷・平田，2021）では、子どもの内面への言及といったやりとりに絡むメンタライジングを「オンライン」、表象レベルのメンタライジングを「オフライン」と分けてみたとき、そのどちらもが子どもとの安定的なアタッチメントを予測するというメタ分析研究を紹介している。項目１の支援は「オフライン」でのメンタライジングを支援するものとみることができ、項目２は実際のやりとりのなかで発揮される「オンライン」のメンタライジング支援といえるだろう。養育者における項目２支援からの影響と考えられるコードをみると、〈養育者が思いつかない子の代弁を支援者がすることによる子の考えの理解可能〉から〈支援者が代弁している内容に関する家での考慮〉といった影響を示すものが確認された。一事例からではあるが、この項目支援からの影響を推察するものである。また子どもの内面への関心についても〈子の心の中で折り合いをつけるタイミングがあることへの気づき〉といったコードなどから、この項目支援の影響をうかがわせる。しかしながら、実際の言語化が養育者においてどの程度行われていたのかを検証することは本研究では限界があり、今後の課題となる。

項目５について、養育者からのコードが複数見い出された。支援者から関わりの実際について教えられた、取り入れたというコードがみられ、養育者にとっては最も実践的で有意な支援と感じたことがうかがえる。これらの養育者コードにおいて着目したい点は、単に表面的な関わり方がわかったということでなく、子どもの内面に関心を向けた上での関わりを養育者が理解し実践していることである。例えば、ある事例では〈支援者の待ちの関わりから子のペースを大事にする意識と関わりの生起〉から〈子のペース尊重による崩れにくさの実感〉に至っており、支援者の関わりをモデルに子どもの内面に配慮した関わりを行うことで子どもの情緒的な安定を感じていることが語られた。

（２）養育者に認識されなかった支援やその影響について

項目３は支援者からのコードが多く分類されたのに比して、養育者側ではコードは全くみられなかった。支援者側では、記入しやすいという意見と難しいという意見とに分かれており、また〈養育者によっては本当の思いを問いかけることの不可〉であることから、支援者において難しい、悩みながらの支援項目となっていたようである。メンタライゼーションは他者の心的状態だけでなく自分自身の内面についても認識する心理機能であることから、養育者が「自分自身の心の状態にも注意を向けながら、子どもを心を持った存在として、意図や気持ちや望みを備えた人間として、思い描く能力」ということができる（繁多，2019）。養育者における自身の思いについて内省できるメンタライゼーションの能力（リフレクティブ機能ともいわれる）が安定的なアタッチメントと関連のあることから、養育者が自身の内面に関心を向け内省できることを促すことが項目３のねらいとしてある。項目３の支援の影響と推測できるコードがみられなかったのは、支援の効果が無いためとも考えられるが、養育者が自身の精神状態に気づき意識化したことを支援の影響として語ることが難しいために

インタビューデータでは影響を見い出せなかった可能性もある。項目３の支援による影響としてどのようなことが養育者に作用するのか、また、それをどのようにして測るのかといったことが課題であると考える。

項目４に関して、支援者は〈子どもが養育者の方に向かうように支援することでの養育者の喜び〉といった実践を行い、チェックシートへの記入もみられるが、養育者が「子の視線や行動に注目」するという支援の影響を認識するコードはみられなかった。この項目の支援では、二人称的他者である養育者から情動的で応答的なかかわり、特に「他者の注目とのかかわり」（レディ，2015）を実際の親子相互作用において経験していくことがねらいであるが、子どもに対して意識的な注目を行ったという認識は養育者に生じにくいと推測される。ただ、後述する子どもの成長に関するコードでは、「目線の合い」や「人の顔を見ての応答」といった内容が認められるため、養育者自身の行動として認識はないものの子どもの変化としては感じており、この項目内容の影響をうかがわせる。さらに影響を検証するためには実際の親子の相互作用場面を分析対象にして検討をする必要があるだろう。

４．２　支援者データからみたチェックシート導入の影響について

本研究ではチェックシートの導入が親子療育グループにおける支援や支援者にもたらす影響を検討することが目的であった。分析の結果から、チェックシートの記入と活用により以下の肯定的な影響がみられると考えられた。

（１）支援に対する省察の機能

チェックシート作成の目的は、記入により支援者の省察機能を高め、ひいては親子関係性への支援の質を高めることであった。支援者からのコード・カテゴリにおける今回の結果から、支援者が記入による省察の機能を感じていることがうかがえた。〈因果の検討という点で行動ベースの通常記録より深化した記録〉として表現されたように、チェックシートへの記入は、単に支援の場で起こった出来事や子どもの様子を記録するのではなく、支援者自身の言動と子どもや養育者の反応との関係を検証する作業となる。自分の関わりがどのようなねらいを持って行ったものであるのか、また、関わりがねらいにそった効果的なものであったのか、今後に向けより適した関わりはどのようなものであるのかを考えることができ、支援者において省察の機会となっていたと考える。ドナルド・ショーンの「リフレクティブ・プラクティショナー」を解説している佐伯によると（佐伯・刑部・刈宿，2018）、実践というものはそのなかで「リフレクション行為」を意図して行わないとリフレクション（省察）しなくなるとし、仕事が熟達化されるにつれ暗黙知が増大し、臨機応変に対応できているかのように見えるが、実は見たいものしか見ない、自分の正しさに強化されていく危険があるという。支援においては、自分の関わりを省察していくことが求められ、本結果からはチェックシートの記入がその手立てとなる可能性があると思われる。

（２）支援のねらいや自分の関わりの意識化

支援者データにおいて〈関わりを意識化し、意味づけ、説明できるといった支援力向上の

効果〉に関連するコードが複数見い出され《親子の関係性への支援という意識化》というカテゴリが生成された。そこで語られたことは、チェックシート記入により〈これまで看過されてきたことに対するその場での丁寧な言語化の意識〉をもつといった〈支援しながらの項目内容の意識化〉であった。このことは「支援者が、親子関係への支援を療育の目的として意識し、その視点での関わりを行うことができたかを振り返る」といったチェックシート作成の目的に合致するものと考える。記入によって支援のねらいを意識化することは、ひいてはこども理解や関わりに対する説明の説得力に通じていくと思われる。支援者において〈チェックシートがあることによる意識の変化〉が認識されたことは、シート導入による肯定的影響を示していると思われる。

（3）自己対話による自分の傾向についての気づき

チェックシートへの記入を行っていくなかで、自分が記入できる項目とできない項目があることに気づき、〈項目による得意不得意により自分の苦手部分の認識〉をしていくことが語られた。また、記入継続のなかで〈記入による支援対象者の偏りに関する気づき〉もあり、その点においても自身の支援の偏りを感じるようである。省察のなかでも得意不得意といった自分の傾向に気づくことは、その後のよりよい関わりを考える上での大きな契機となると推測する。ソーシャルワークの先行研究より省察的実践の構成要素を質的に分析した加藤（2020）によると、省察的実践の方法要素では「行為のなかの省察」や「記述する」「内面で対話する」といった方法により『自己との対話』を繰り返し『行為の理解』がなされ、ひいては『実践の変容』に結びつけることが重要な特徴であるとしている。本チェックシート導入においても、記入が自己との対話の機会となり、そこから自分の関わりについて理解し、支援の質を高めることにつながっていく可能性が示唆される。

対人支援においては自己内対話のみで改善しにくいこともあるため、〈項目内容と現象の結びつきに関する心理士助言による気づき〉といった《省察への心理士によるサポート》も有効に働くものと思われる。このようにチェックシートを活用していくには、しかしながら、困難があることも結果から明らかになり、今後さらなる改善が必要である。

4.3　養育者データからみた支援からの影響について

養育者データのコードからカテゴリ化された以下二点について考察する。チェックシート導入による支援の影響が示唆されるものである。

（1）養育者の心情にそった支援の認識

《養育者にも寄り添った支援》としてカテゴリ化されたもので、〈子だけでなく親にも寄り添い一緒に対応を考えてくれる良さ〉のように養育者の心情に意識を向けた支援者の関わりを養育者自身も感じていることがわかる。前述の考察で、養育者は自身の言動を意識化して支援の影響として語ることは難しいのではないかと述べたが、支援が養育者の心情を慮ったものであることは認識されているといえよう。項目３の支援「養育者の内面の聴取や言葉かけ」が、養育者の心情の側面に影響している可能性も考えられる。

（2）子どもの情緒面における成長の実感

養育者からは、親子療育グループに通園したことでの成長が語られ、《情緒や社会性、コミュニケーションにおける子の成長》カテゴリとしてまとまった。ここで集約されたコードをみると、「目線の合い」「表情への注目」「人の顔を見ての応答」「気持ちの切り替えの上達」といった対人的注目の向上や情緒の発達において成長を実感していることがわかる。このことは「親の子ども理解とその理解に基づいた適切な相互作用経験が安定した親子関係を促進するとの考えに基づき作成」したチェックシートによる支援の影響が、子どもの対人・情緒面の発達として表れたと捉えることもできるだろう。発達支援を要する子どもと養育者との適切な相互作用経験により愛着関係がより安定したものに変化することが、子どもの情緒的発達を促すことは様々な研究や実践により明らかになっている（例えば、尾崎，2020）。情緒面の発達を養育者が感じているという今回の結果は、支援の影響を示唆していると思われる。

5　結論

本研究では、支援者用チェックシートを導入した親子グループの支援者と養育者双方にインタビューを実施し、チェックシートによる支援やその影響について検討を行った。インタビューの全ての内容をコード化し、それらをチェックシート項目の内容に照らし合わせて分析した。

結果、支援者は項目により支援や記入が行いやすいと考えるものと困難と考えるものがあり、そのような気づきも含めてチェックシートの記入が省察の機能として働いていることが示唆された。チェックシートにより親子関係性への支援というねらいや自分の関わりを意識化することが明らかとなり、支援者に肯定的な影響のあることが示された。

養育者においては、支援の影響と考えられるコードが複数みられる項目と、支援の影響に当たるコードが全くみられない項目とがあった。コードのみられない項目について、支援の影響がないということも理由にあると思われるが、養育者が自身の言動を対象化して支援の影響として語ることの限界もあるのではないか考えられた。

チェックシート導入の支援による養育者への影響としては、子どもの内面に関心を向け、その内面から行動を理解しようとしている点がみられた。また、支援で見聞きした関わり方を取り入れ、子どもの内面に配慮した関わりを意識して行っていることが語られた。親子療育グループの終了後では、子どもの情緒やコミュニケーション面での成長を実感していることもわかった。

これらの結果は、チェックシートの記入が支援者の省察を促し、親子関係への支援の質を高めるといったチェックシート導入の目的に対して、一定の有用性を示すものであると考える。また、それらの支援によって、養育者のこども理解と関わりに影響を与え、ひいては子どもの情緒やコミュニケーションの発達にもつながっていることが示唆された。

一方で、本研究における限界が示され、今後の課題も明らかとなった。

チェックシート導入の効果を検証するにあたり、養育者のインタビューデータからは養育者が認識している事柄しか表現されないため、養育者による関わりや言葉かけといった実際の相互作用における支援の影響を確認することは難しかった。これらの影響をみるためには行動レベルのデータを取得する必要があると考えられる。今後は養育者と子や支援者と親子の関わりの映像データから実証的な分析を行いたいと考える。

また本研究は、一グループにおける参加者のデータであり、また養育者も参加者全員が対象ではなかったため、ある意味親子グループの支援に対し肯定的な意見や感想をもっている対象者の分析ともいえる。今後は、対象とするグループや参加者を増やすことによって、より多様なグループや参加者からデータを集め、そこから見い出せるチェックシート導入による支援の影響を確かめていくことが求められる。

謝辞

本研究にご協力いただいた施設職員の皆様、養育者の皆様に記して感謝申し上げます。

引用文献

（1）Bateman,A. and Fonagy,P. Psychotherapy for Borderline Personality Disorder: Mentalization-Based Treatment. Oxford University Press. 2004. 狩野力八郎，白波瀬丈一郎監訳. メンタライゼーションと境界パーソナリティ障害. 岩崎学術出版社, 2008, 488p.

（2）繁多進. 基礎講義アタッチメント－子どもとかかわるすべての人のために－.岩崎学術出版社, 2019,248p.

（3）蒲谷槙介・平田悠里. 親子関係における情動と発達.遠藤利彦（編著）,情動発達の理論と支援.金子書房,2021,p70-81.

（4）加藤由衣. ソーシャルワークにおける省察的実践支援ツールの構成指標の検討.高知県立大学紀要社会福祉学部編,2020,70,p45-59.

（5）三木陽子. 親子療育グループにおける支援者用チェックシート作成と導入の試み.浦和論叢,2022,66,p43-56.

（6）尾崎康子. 発達障害への支援におけるアタッチメントの意義と限界.教育と医学の会（編）,医学と教育,慶応義塾大学出版会,2020,68,p38-44.

（7）佐伯胖・刑部育子・刈宿敏文. ビデオによるリフレクション入門.東京大学出版会,2018,p181.

（8）Slade,A.,Grienenberger,J.,Bernbach,E.,Levy,D.,Locker,A..Maternal reflective functioning, attachment, and the transmission gap: a preliminary study. Attach Hum Dev. 2005,7（3）,p283-298.

（9）ヴァスデヴィ・レディ. 驚くべき乳幼児の心の世界―「二人称的アプローチ」から見えてくること―.佐伯胖訳.ミネルヴァ書房, 2015,363p.

Summary

The Effects of Introducing a Check Sheet for Supporters on the Parent-Child Relationship Support

—Through analysis of interviews with parents and supporters—

Youko Miki

In the parent-child group provided as early childhood development support, supporters were asked to fill out a check sheet for reflection with the aim of fostering a stable and better parent-child relationship. In this study, in order to examine the effects of the check sheet, interviews were conducted with both supporters and caregivers, and the content of these interviews was analyzed. The results of the effects of each item of support on the check sheet revealed that some support was recognized by the caregivers and some was not. For the supporters, the check sheet showed the effects of reflection, awareness of support goals, and awareness of their own tendencies. For the caregivers, there were examples of paying attention to their children's within and changing their involvement based on an understanding of what's happening inside their children, and examples expressing a sense of growth in their emotional aspects. In the future, it will be necessary to examine the actual interactions between caregivers and children at the behavioral level to verify the effect of the support in the check sheet.

Keywords　child development support, parent-child group, relationship between parents and children, reflection, check sheet

（2022年５月19日受領）